

令和6年

第11回10月定例教育委員会議事録

令和6年10月30日

大野城市教育委員会

## 次 第

### 1 招集日時

- 招 集 日 令和6年10月30日
- 開会時間 午前10時00分
- 閉会時間 午前11時00分

### 2 招集の場所 大野城市役所 本館3階 災害対策本部室

### 3 会議次第

#### (1) 開会

#### (2) 議事録署名委員の指名

令和6年第10回9月定例会議事録の署名委員 藤河 久美 委員

令和6年第11回10月定例会議事録の署名委員 佐藤 友恵 委員

#### (3) 議事

第33号 大野城市地域クラブ活動事業実施規則の一部を改正する規則の  
制定について

第34号 学校運営協議会委員の任命について

報告1号 教育長の職務を代理する者の指名について

#### (4) 教育長報告

#### (5) 報告

①令和6年度学力調査結果報告書について

#### (6) その他

①令和6年9月議会 教育部への一般質問（概要）

②教育長の業務報告（9月～10月）

③教育委員会の主な行事・業務の予定（11月）

#### (7) 閉会

### 4 出席した委員等 伊藤 啓二（教育長） ・高野 英機 ・ 山口 典子 藤河 久美 ・ 佐藤 友恵

### 5 欠席した委員 關 知子

6 出席した職員

教 育 部 長	若山 純哉
教 育 政 策 課 長	光野 直隆
教 育 振 興 課 長	松岡 真彦
教 育 支 援 課 長	山崎 栄子
教育支援課主幹指導主事	平井 源樹
ス ポ ー ツ 課 長	甲斐 めぐみ
ス ポ ー ツ 課 長	中原 英貴
教 育 政 策 課 担 当	吉富 咲紀
教 育 政 策 課 担 当	橋本 由美

7 会議の書記

教 育 政 策 課 担 当	橋本 由美
---------------	-------

午前10時00分 開会

○伊藤教育長

ただいまから令和6年10月教育委員会を開催いたします。

〔議事録署名委員の指名〕

○伊藤教育長

次第の2、議事録の承認に入ります。前回の9月定例会にて藤河委員にお願いをしておりましたので、ご署名をお願いします。

それでは、今回の議事録の署名については佐藤委員にお願いいたします。次回の委員会にてご署名をお願いいたします。

〔議 事〕

○伊藤教育長

次第3、議事に入ります。

〔第33号議案 大野城市地域クラブ活動事業実施規則の一部を改正する規則の制定について〕

○伊藤教育長

第33号議案、大野城市地域クラブ活動事業実施規則の一部を改正する規則の制定について、松岡教育振興課長、説明をお願いします。

○松岡教育振興課長

第33号議案、大野城市地域クラブ活動事業実施規則の一部を改正する規則の制定について、ご説明いたします。

1 ページをご覧ください。

本規則につきましては、本年4月に制定し、8月から地域クラブ活動の試行を開始しているところでございます。改正の理由は、クラブの種目、参加者数等に応じて適切に監督および指導を行うため、指導者の配置人数を見直すものです。

2 ページをご覧ください。

改正の内容につきましては、規則第6条の指導者の配置において、指導者を2人配

置と規定していたものを、指導者を1人以上配置に改めるものです。

次に現状について、補足してご説明いたします。本日配布しています、令和6年度大野中学校地域クラブ活動指導者一覧をご覧ください。現在、本規則において、各クラブに指導者を2人配置と規定していますので、2人の指導者について謝金をお支払いしているところです。しかしながら、野球、サッカー、女子バスケットボールの3種目については、日によって、3人以上の指導者が参加をしており、3人目以降の指導者については、ボランティアで指導に参加していただいているところです。従来の部活動で活動していた際は、全教員に特殊勤務手当が支給されていましたが、地域クラブ活動に移行したことで、意欲のある教員がボランティア扱いとなり、結果的に待遇が悪化している状況にあります。また、指導者として登録していただいた外部指導者についても3人目以降となった場合、ボランティア扱いとなり、今後の事業への協力者の減少が危惧されます。そのため、今回規則の改正を行い、3人目以降の指導者に対しても謝金を支払うことができるようにし、指導者人数の詳細な基準につきましては、大野城市地域クラブ活動実行委員会で策定しています、「大野城市地域クラブ活動ガイドライン」の中で、別途定めたいと考えております。

説明は以上です。

○伊藤教育長

それでは、ただいまの説明について、質問はございませんか。

どうぞ、佐藤委員。

○佐藤委員

この規則は、公布の日から施行すると書いてありますが、具体的にはいつごろからそのような形になる予定ですか。

○松岡教育振興課長

本日承認いただけましたら、今日以降の分については対応を行いたいと考えております。

○佐藤委員

安心いたしました。よろしくお願いいたします。

○伊藤教育長

ほか、よろしいですか。

はい、山口委員。

○山口委員

ご説明ありがとうございます。ご説明がなければ、よく理解できなかったのですが、謝金が人数分支払われるということで、とてもよい方向に行くのかなと思いました。

実際に活動されている方から、謝金の件ではご納得いただけなかったということも聞いていたので、こういう形になってよかったですと思います。

○伊藤教育長

そのほか、よろしいでしょうか。

想定より指導者が多かった。これはうれしい誤算ではあったんですが、それに伴って謝金が支払えなかったという状況が生まれていましたので、早急に改正をすることができるかなと思っております。

これより、採決に入ります。

第33号議案について承認することに異議はありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○伊藤教育長

異議なしですので、第33号議案について承認すべきものと決めます。

〔第34号議案 学校運営協議会委員の任命について〕

○伊藤教育長

第34号議案、学校運営協議会委員の任命について、山崎教育支援課長、説明をお願いします。

○山崎教育支援課長

それでは、3ページをお開きください。

第34号議案、大野城市学校運営協議会委員の任命について、説明させていただきます。

下大利団地区長の交代に伴い、補欠委員の任命を、大野城市学校運営協議会規則第4条及び第5条の規定に基づき、教育委員会が任命することとされておりますので、今回承認を求めるものでございます。

今回は2校分の承認をお願いいたします。

各校ともに、委員の任期は令和6年10月30日から令和7年3月31日までとなります。説明は以上となります。

○伊藤教育長

ただいまの説明について何か質問はございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○伊藤教育長

それでは、これより採決に入ります。

第34号議案について承認することに異議はありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○伊藤教育長

異議なしですので、第34号議案について承認すべきものと決めます。

〔報告1号 教育長の職務を代理する者の指名について〕

○伊藤教育長

続いて、報告1号、教育長の職務を代理する者の指名について、光野教育政策課長、説明をお願いします。

○光野教育政策課長

5ページをお願いいたします。

教育長の職務を代理する者の指名ということで、前任の松本委員が勇退されましたので、職務代理者につきましては、6ページにありますように、高野英機委員を10月1日より指名させていただくということになりましたので、報告をさせていただきます。

以上でございます。

○伊藤教育長

それでは、高野委員、職務代理者として、どうぞよろしく申し上げます。

○高野委員

よろしく申し上げます。

〔教育長報告〕

○伊藤教育長

続いて、次第の4、教育長報告になります。

「要望書」という別紙をご覧くださいませでしょうか。

これは、令和7年度に向けての福岡県教育予算並びに施策等について、福岡県市町村教育委員会連絡協議会から福岡県教育委員会に対して要望書を毎年提出しております。

2ページに書いてありますように、福岡県教育委員会の寺崎教育長宛てに福岡県市町村教育委員会連絡協議会の会長以下理事16名で要望書を提出しております。

3ページ以降がその要望の内容ですが、大きく9項目あります。1つ目は教職員の定数確保並びに複雑化する教育課題に対応する教職員増員の推進ということで10点、それから情報化に対応した積極的支援について2点、働き方改革の実現に関する対応支援に関して2点、それから教職員研修の充実に関して5点、続いて4ページに、いじめ・不登校・問題行動等対策の充実に関して4点、特別支援教育の推進に関して5点、施設整備費の補助の拡充に向けた国への要望並びに県による技術支援の充実として3点、部活動の対応について3点、その他として5点、これらの内容を、要望書として提出しております。

また、5ページには、緊急提言として2点提言をさせていただいております。

一つは、教員採用における新規教職員の資質の確保。これは採用倍率が低下したことによって、やはり各所で教員の適性・資質について、様々な問題が発生している状況があるということで、採用の段階での資質、能力、倫理感、様々なものについて、きちんとした判断ができるようにする。教職員の数を増やすことは重要ですが、その能力に応じて採用の可否をきちんと判断していただきたいということでの提言をしております。

2点目は、いじめ防止対策推進法における重大事態要件の改正（国への要望）ということで、これも本市でも起こっております重大事態が、今年度、各自治体でかなり多くなってきております。その重大事態の要件について、やはり学校現場の状況と教育委員会の対応とが合っていないところがあるのではないかとということで、その見直しを、国に対して、県としても要望していただきたいということで提言を上げているところです。

教育長の業務報告の中にもありますが、10月18日に、福岡県教育委員会に福岡県市町村教育委員会連絡協議会の役員で出向いて要望書を提出し、回答をいただいているところです。いずれにしても、この要望に関して、県とともに充実させていくべきことに関しては連携して進めていくという回答をもらっているところです。

簡単ですけれども、こういう形でそれぞれの教育委員会から取りまとめて提言をしているということでお知らせしたいと思います。

私からの報告は以上です。

何か今の件に関しまして、ご質問がございましたら、どうぞ。

藤河委員。

#### ○藤河委員

この要望を出していただき、とてもありがたいなと思っています。

一つお尋ねですが、1の特別支援の学級編制基準の改善というのは、多分1クラスの人数を、今基準が8人ですかね、8人よりも少なくしてというような要望ということですね。

#### ○伊藤教育長

そうですね。特別支援の学級編制基準が8人では、やはりなかなか1人で対応でき

ない状況に置かれているということで、本市もそうですけれども、支援員を多数配置しています。そういう状況の中で、国に対して、基準を変更ができないかということですね。

ただ、その要望はしていますが、学級数が非常に増えていて、痛しかゆしの現状というところもあります。

○藤河委員

そうだなと思います。

結局、特別支援学級数が増えているので、教員数が不足している。

すごく難しいなと思います。多分予想もできなかった。私が辞めてから、この何年間で特別支援学級が増えて、そこと教員数との問題ですね。

○伊藤教育長

そうですね。

○藤河委員

その問題は難しいなと思っているのと、もう一つ、教員だけではないと思うのですが、ブラック、ブラックと言われているところが数多くあり、また質の低下も言われているので、やはり県からも、教員としてのやりがいとか、そういったのをアピールしてもらえようようなことができればいいなと思っております。

○伊藤教育長

その件に関しては、県の事業として、採用前の先生方に、教員の仕事についてのよさであるとか、そういったものを先輩教員から伝えてもらう説明会のようなものであるとか、これまでやっていた事業をさらに充実させていくという回答はもらってはいるところです。

いずれにしても、現場の先生方からもいろいろ発信してもらわないといけないかなと思っていますし、大野城市でも、学校に実習とは別に、教員養成大学の生徒がボランティアで来て、学級指導と一緒に入ってもらうなどしています。そのかたが教員採用試験を受けて、その学校に配置をされたというようなケースもあっていますので、市としてもそういった取組も行っているところです。

そのほか何かありましたら。

山口委員。

○山口委員

今回の要望書、提出いただいてありがとうございます。本当にいろんな課題が山積しているなというのが確認できますが、二つ質問があって、この要望書というのは、毎年こうやって出す機会があるということなのかということ、ちょっと細かい質問になりますが、1の7点目、複式学級緩和のためのというところのご説明をお願いします。

○伊藤教育長

この要望書に関しては、各教育委員会から要望の内容について、教育委員会にかけるところまではやっていませんが、毎年内容を精査して、事務局と教育長で審議をして出してもらったものを、役員会の中で、どれを採用していくか、どういうふうに変えていくかという議論をし、毎年大体10月に提出をしています。

それから、複式学級緩和のための教員の配置ですが、複式学級になっている学校が、県内には結構たくさんあります。大野城市は今のところないんですが、これは要するに、どうしても1学年だけで学級ができずに3・4年生での複式、1・2年生での複式、こういった複式学級になったとき、特に中学校では、教員がきちんと各教科配置をされませんので、教員の配置に関しての、県としてのルールがあるということなんです。

人数が少なくても、それぞれの教科、専門性を担保して指導しなければなりませんので、きちんと配置の基準を見直しをしてほしいというような要望ですね。これも教員不足の中ではなかなか難しいところです。

○山口委員

ありがとうございます。

○伊藤教育長

そのほかよろしいでしょうか。

また内容を見られて、来年度に向けてこういうふうにしてほしいというような意見

がありましたら、事務局あるいは私でも構いませんので、直接言っていただきましたら、来年度の要望に反映をしていきたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〔報 告〕

○伊藤教育長

次第の5報告、令和6年度学力調査結果報告書について、平井教育支援課主幹指導主事、説明をお願いします。

○平井教育支援課主幹指導主事

別紙の結果報告書の冊子をご覧ください。

令和6年度の学力調査の結果報告をいたします。

2ページをお開きください。

令和6年度の大野城市の正答率をお示ししています。本年度もこれまで同様、全国平均、県平均を上回る結果となっております。

6ページ、7ページをお開きください。

この資料は、同一集団の比較です。現在の6年生が5年生だったとき、そして現在の中学3年生が2年生だったときの福岡県平均を100としたときの割合です。同一集団で比較をすることで、昨年度の当該学年の学力向上の取組の成果と課題が見えてまいります。

続いて、12、13ページをお開きください。

これは、福岡県教育委員会が示す、児童・生徒質問紙の中で「学びに向かう力」に関係があるとしている質問項目と結果です。数値は「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童生徒を合計した割合です。

13ページの「学びを調整する力」に関しましては、ほとんどの項目で全国平均、さらには福岡県平均を下回っていることが分かります。これは、子どもが主体的に取り組む授業づくりが県レベルよりも低いことを示しております。

最後に、20ページをお開きください。

一番上の「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問項目は、福岡教育事務所の分析から、点数で表される学力と最も関係が高かった項目になります。この数値が高い学校は点数も高い結果が出ているということですが、本市は、1の「当てはまる」

と回答した児童生徒の割合は全国平均、県平均を下回っているのが分かります。

学校生活の大半は授業ですので、その日々の授業を学びがいのある楽しいものへと改善していく必要性がうかがえました。

今後は、子どもに現代社会を生き抜く力、真の生きる力を育成するために、教師が教える授業から子どもが自ら学ぶ授業への転換を、そして、上手に教える教師ではなく、子どもが学びたくなる授業の構成ができる教師の育成が大野城市が取り組むべきことと考え、研修の場を充実させていきたいと考えております。

以上でございます。

#### ○伊藤教育長

それでは、ただいまの説明について、何か質問がありましたらお願いいたします。

私から、昨日の校長会の中でも、この件についての説明をしました。それで、その折、今の傾向についても出させていただいておりますが、自分の学校がどうなのか、そういうふうになっているのはなぜだろうかというところをしっかりと探してほしい、検証してほしいなと思っています。先ほどの授業づくりのところで、子どもの感覚としていま一つ子ども主体の学習になっていないという結果と、学校に行くのが楽しいというふうに感じられていない子どもが多いという結果が出ている。それを踏まえて、どこに、何が要因になっているかということ、このデータをきちんと見てもらって、その課題を解決するために何ができるか考えてほしいと思っています。

何か皆さん方からありましたらどうぞ。

佐藤委員。

#### ○佐藤委員

今、大野城市では、先生方が、生徒が自分の授業をどのように思っているのかというのを判断できる、評価しているようなものというものはあるのでしょうか。

#### ○平井教育支援課主幹指導主事

全国学力・学習状況調査で、学校質問紙調査というのがありまして、学校を総体として授業をどう捉えているかというのがあります。個々人で見ることができませんが、学校の管理職が判断する学校の状況というのはデータとしてございます。

○佐藤委員

やはり子どもたちの話などを聞いていると、この先生の授業はすごく楽しいけど、この先生は、うーんというような話も聞くけれども、実際にその先生自身がそれについて理解していなければ、そのまま面白くない授業のまま続いていくんじゃないかなと思って、やはりそういった評価をするようなシステムがないと向上していかないんじゃないかなと感じています。

○平井教育支援課主幹指導主事

よろしいですか。

○伊藤教育長

どうぞ。

○平井教育支援課主幹指導主事

こういうオフィシャルに発表されるデータとしては、今、述べたものがありますが、各学校それぞれの観点で授業評価を行っております。教員の評価、授業や学校全般に関する評価、そして子どもから見た授業、学校生活に関する評価、ここの比較で、いかに乖離しているか、合致しているか、そういった点から毎学期反省しながら改善を行っておりますので、そこが個々人の教員に自分事として捉えられるように、学校へ投げかけていきたいと考えております。

○佐藤委員

ありがとうございます。よりよくなるように、よろしく申し上げます。

○伊藤教育長

今、平井主幹指導主事が言った補足として、中学校では授業評価を、きちんと学期単位で行っています。その結果が数値で出ますので、それを本人にも返しています。それを踏まえて、授業のどこを改善していくかということは、管理職が面談をして一緒に考えるなど、改善を図っているところですね。

ですから、そういう意味で、先生たちが自分の授業をどういうふうに関心を持って

いるかというのをモニターすることはできていると思っています。

やはり内容的に授業改善がなかなか進まないような方もいらっしゃるの事実ですので、そこら辺が子どもにとってどういうふうに捉えられているかなということは、それぞれ学校の管理職が把握していると思うんですけども、うまく改善ができればいいなと思っておりますが、そういうモニターはしています。

何かほかにありましたら。

高野委員。

○高野委員

四分位層という分析の仕方が出てきていますが、これは前からありましたか。

○平井教育支援課主幹指導主事

これは前からしておりました。

○高野委員

そうですか。これの分析の仕方ですが、最小値から最高値までの最小というのは点数ですか。点数の最低点と最高点。

○平井教育支援課主幹指導主事

はい。

○高野委員

その点数のところにいる人数を、点数の最小から最高までの中間点で切るんですよ。切って、それで分析する。

○平井教育支援課主幹指導主事

はい。

○高野委員

分かりました。ということは、例えば、国語の四分位層比較でいうと、A層というのは全体の得点配置の中の4分の1の高得点のところに42.6%の子どもたちがいると

いう見方でいいということですね。

○平井教育支援課主幹指導主事

はい。ちょっとよろしいでしょうか。

○伊藤教育長

はい、どうぞお願いします。

○平井教育支援課主幹指導主事

四分位層分析するに当たって、私も県にいるときに関わった覚えがあって、今ちょっとクリアに思い出せませんが、単純にこの点数を四つに区切るというよりも、平均点を真ん中にして、専門的な区切り方がありました。どこで区切るかはとても細かく計算して出していた覚えがありますが、そういったところから、何点までがA層、何点までがB層、何点までがC層というような区切り方をしておりました単純な4分割ではございません。

○高野委員

通常は最低点と最高点とその中間で、まず二つに割って、またその中間で割って四分位作るんですよね。この場合は、そういう言われてあるようなやり方、偏差値みたいな感じですね。

○平井教育支援課主幹指導主事

そうですね、はい。

○高野委員

すいません。これは以前からこういう分析でやってたんですよね。

○伊藤教育長

県では、やっていて、市にも、このデータは来ていました。今まで資料に載せていなかったですか。

○平井教育支援課主幹指導主事

載せている年と載せない年がありました。

○高野委員

あれ、こんな分析してたかなと思いました。ありがとうございます。

○伊藤教育長

学校では、D層の子どもをどういうふうに改善していくかということに対して、分析のデータを使用しています。学校訪問の中でよくC層とかD層とかいう言葉が出るのは、大体このものを基準にして考えていますね。

そのほか、よろしいでしょうか。

山口委員。

○山口委員

数値の低いところの報告、ありがとうございました。

「学校に行くのは楽しいと思いますか」というところで、中学校の数字が県平均と全国平均に比べてかなり低いんですけれども、保護者の感覚としては、学校の校則なんかも、今年ぐらいから変わってきたりしておりますので、また来年以降、この数字ももうちょっとよくなればいいなという感覚でいます。

うちの子どもはもう卒業しましたが、理不尽な怒られ方をするなど、授業がついていけないから楽しい、楽しくないという判断以外のことも学校生活にはたくさんあると感じていました。そういったところで、中学校も今後数字がよくなってほしいなという思いもあり、期待したいと思っております。

以上です。

○伊藤教育長

よろしいですか。

今の意見も踏まえながら、先ほど言いましたように、学校もしっかりとデータとして受け止めて、見直していくべきところを見直してほしいなと思っています。

[その他]

- (1) 令和6年9月議会 教育部への一般質問（概要）
- (2) 教育長の業務報告（9月～10月）
- (3) 教育委員会の主な行事・業務の予定（11月）

○伊藤教育長

では、これをもちまして10月の定例教育委員会を閉会いたします。

午前11時00分 閉会